

唐土訓蒙圖彙

魚尾書

十四

內閣文庫		和書
二四	二一	類
函	二	
三	三	
三	四	
架	冊	

太政官文庫		和書門
一	三	門
五	二	
冊	七	
	四	
	函	

內閣文庫	
番號	和 11134
冊數	15 (15)
函號	184 360

典故



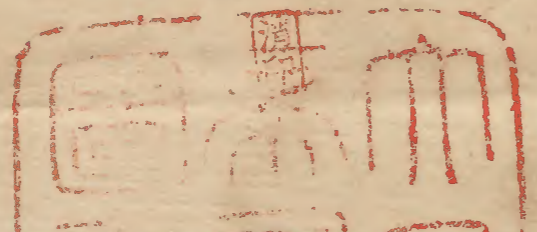
A 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007. TM: Kodak





唐土訓蒙圖彙卷之十四

名下二
和名と海

魚介蟲

以於ハ魚鱗甲の
のセ々乃ハ
州虫の
一

蜃

その形蛇と似く大角ありて
の状のく鬚をこ後ハ下鱗

應龍

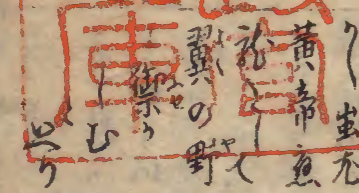
のくく海よりく氣を吐く
のくくは是と蜃樹又海市といふ

恭丘山
意能あり

龍
龍

黃帝
魚

翼の野



單龍

狀字之入て
知ふて大さ
一二丈五色
背尾皆鱗
甲ありよく
音とらに多
といふこと
夜更に應に
鹽龍



龍の類なり
甲は龍に似
て但其角
灣其角
三形乳
獺類
陰雨に雲
を捲
肥蠶



陽山の神
お身六足
四翼わら
くはくは
其国大
早はひ
湯の
わ



騰蛇

騰の類なり
雄の凡上
多に雌も
風下にけり
こくも
子騰蛇遊霧
飛蛇乘雲龍
霧除與蛇同
失其所乘故也



蜃蛇

その形大
して毛
く鹿山馬
とのむ
斑文ありて
錦織の
雷加の人
膽とて
七負
名南地



斫木蛇

い蛇つ
樹上にあて
人といひ
跳て
又樹より
て蛇と
人の笑
とて
ちと
の



青蛇

屏山
蛇あり天山
の
高百餘丈
日野
と捉
数



方頭魚

うしろ令
線いゆる
大らひの
さいの骨
丸い尾
に岐を
和名あま
さい

金線魚

鱗ハ棘鬚
魚れしく
て細長く
とあうり
類のこ
しり尻
うろ合線
をて海
採刺時
糸とよ



緋魚

状ハ紅紫
魚のしく
長入る
んり然
紅紫の敷
まわりの
目大う
と朱の

火燒鰯

尻尾し
吻いゆる
脊骨隆
赤鬚を
尾に連て翼
端幅の
魚體赤
網意



肋魚

鮒魚い
骨為り
やそ
冬空
いりて
ものと雪
映魚と名
佳味
佳り

玉竹肋魚

身圓
細の
做馬
鱗ハ
茎を
時
肥し

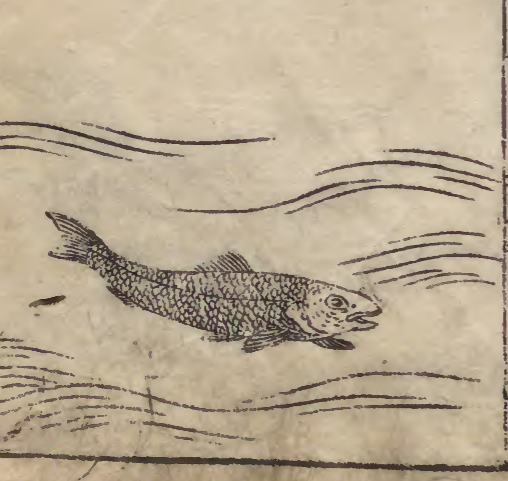
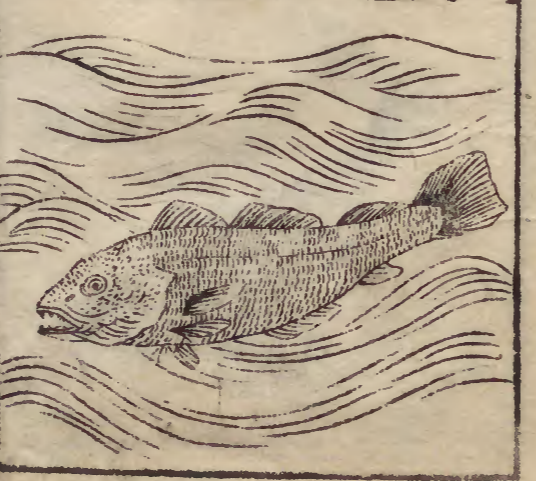


大口魚

どの伏鳥
類魚い
色淡
して大
細線
い魚水
脯と
佳

竹魚

状ハ魚
のめく
骨刺後
色幻
ととの
佳



丹魚

飛脚の
尾の如
き丹の如
金さんわり
鉄魚の状
同く
と云ふ



鯉魚

肉厚
細く
鱗の如
き
沙と水
わき子の
つづ



鯉魚

その状鯉
に似て小
と云ふ
二と三
一ふ二後
はより
鯉の如
鯉魚あり



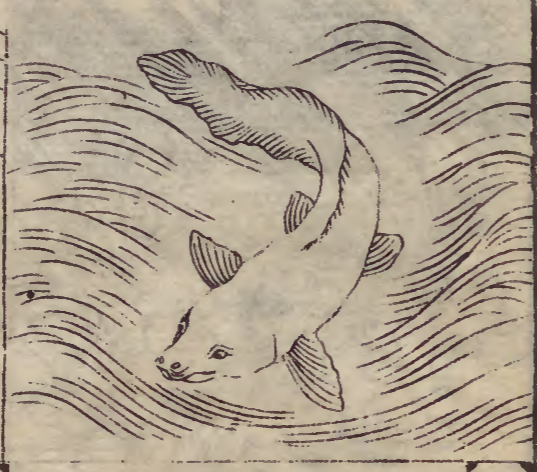
彈塗

一名の蘭
形小鯉
似て短
大なり者
長三五寸
潮浪て千
百群とか
ト云ふ



牛魚

狀ハ鯉
骨
斑文あり
腹の下
牛に似
と云ふ
鱗の属



海蠶

その
状ハ
鱗あり
足多
毒あり
和云
か



龍魚

飛脚の
似く
口領の下
粘り
脊肉
鱗あり



龍魚

狀ハ
骨
佳なり
明海
不

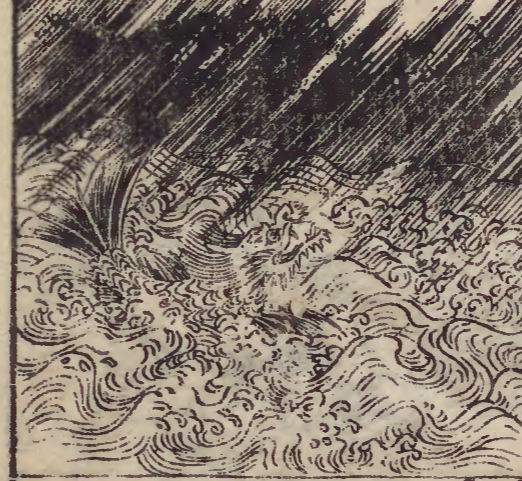


胡龜

冬のこま
くして背
上二河を
大なりもの
長一丈餘
小つこの
三つ入を
繁葉の

鴟尾

狀ハ龍を
して尾を
浪と激を
つらぬとや
屋上の尾
優と作て
火災と威
カク虫尾
鳴吻

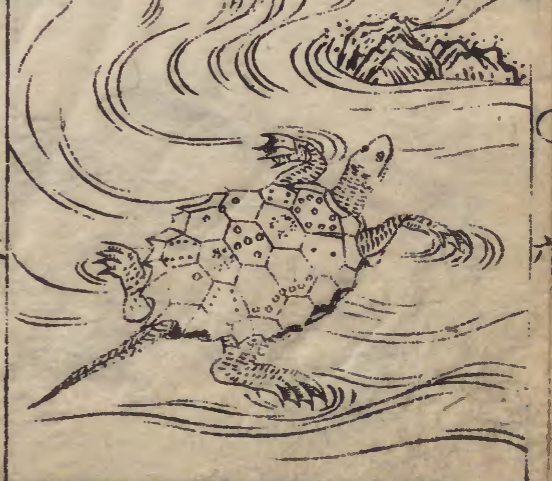


神龜

夏の禹王水
と治玉の時
浴水入り
龜かき
其の字
畫の形
禹王と
紀て九龍
の港に
今

教龜

曰く海
の東岱輿
員嶠方壺
瀛洲蓬萊
の五山あり
巨鼈首と
仰くあれと送
この代とい



蟻龜

跋踵水
氷に
氷環と
交米あり
その甲を
ひてト
碇の用
負巖と
玳瑁の雌

玄龜

扭陽山北
怪水河出
東注水中
玄龜多し
其狀鳥乃
首鹿の尾
音破水の
舟の



瘡龜

いんちん山
石下よ
とら
偏頭大甯
老瘡と
或は病人乃
外に起る
掛る

攝龜

一名烏龜
腹小カ
中心
能
圓川
蛇と
故に
電



海鏡

此殼五斤の四一斤の白一斤の粉の類之

臧

海鏡の石より著て生肉の飛膠と



唐書地理志卷九十四



標雞 一名紅雞 子大足不 一七寸長 翼外 越形 斑點 内翅 名お

蜩

そのこら 首方 廣く冠を 蝉と似て 鳴る 名お 寧母



蝥

蝥と同一 苗と同一 淮南子曰法 令と柱を 虫類多し 今 令敷と以 てとらふ

菊虎

その形裳 菊の苗を 含てて 菊の宿根 により化す 小虫

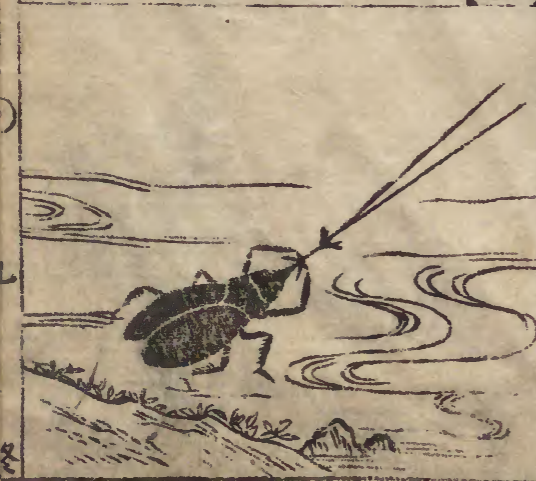


蚊

蚊ハ水電 のゆくハ足 ありて長尾 ありて毒 大なりもの 人とせし 虫なり

蟻

形電と似て 長三寸其 色黄 一若 上は甲あり 下は二角あり 名お 人とおに 似て死に



水虎水虎
 狀三四歳の
 小虎の如く
 甲の鱗が
 西の上へ曝
 露し虎に似
 とす掌の爪
 と爪と似し
 今示は小
 虎の如く後
 變じ



謝豹謝豹
 此の如く
 生くじり
 心と抱て死
 し人の能
 ぬはりて
 とれたる
 面と背の
 と背の
 のくし
 唐の長成
 の説なり

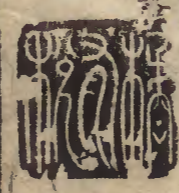


無三祖六法之傳。分不能以通神矣。始有牙
 令所塗抹。未定仲由之木。初昭君之帷帽
 之病。親者宜之怒焉。

浪華

畫者

橘有税



寶文堂藏板豫顯目錄

又汲心齋橋筋安堂寺町
 南江入西側書林秋田屋

又野本市兵衛

唐土訓蒙圖彙十冊

後素軒橋守國画

此書ハ唐土のわづらふと記と天地日月山川名勝地記及海客雜
 人賢人佛像仙家奇國の事の上り捨摺卷本の事多岐成り山海
 本草種の於會然れ其物魚の類の類と異なりしと云れ
 雜記の入りぬし一往來くり初心の足安と換板行ふいと云

畫本故事談九冊

和漢の故事を屏風繪の如く
 ふあはせし西工の一冊と云

畫典通考十冊

故事談よりわづらふ和漢の
 事と云ふふあはせしと云

佛像圖彙四冊

諸佛法像明と云ふ和漢の
 佛をわづらふと云ふと云

畫本手鑑六冊

和漢の文字を模写し画の
 事と云ふと云ふと云ふと云

和漢名畫苑六冊

後今を濫行法編和漢の
 流義と初分はと云ふと云

畫史會要六冊

名画苑に續編和漢の
 事と云ふと云ふと云ふと云

畫筌七冊

林守篤画
 彩色法具は換へ物の画法
 云水名一切れは云ふと云

畫本圖編三冊

英一輝画
 戲子の事と法を云ふ
 られた事と云ふと云

繪本操州三冊

月國丹下筆
 女の及訓の事と云ふと云
 賢女との事と云ふと云

欄間圖式三冊

大田春上画
 公の直と云ふと云ふと云

梅道人墨竹譜一冊

梅道人の墨竹の譜と云ふ
 本法の竹は云ふと云ふと云

女武勇粧競二冊

月國丹下画
 後今を濫行法編和漢の
 事と云ふと云ふと云ふと云

和漢三才圖會寺嶋良安著 八冊

和漢の善相と女一文字地理人未多材宮室草木禽獸魚鳥一切のあり
事に象徴か一註をくわ其の圖と名に旧跡社傳國語記多細細ふり

四書 全十冊

道春洲左先板を改訂し
文字小字讀字ふり
和漢の善相乃國畫後
彩色を挿字一いつ

同無点 全十冊

文字の誤とて未讀漢
書ハ本を小より一いつ
古西光版香羽法を先の
ら一いつ

新刻五經 十一冊

文字をふり假名をふり
未讀漢に定一いつ板板
一切の善相抄りて各各の
の字を離形す

小學句讀定註 四冊

全部の註をあつと免
新刻の
道春点片ナ附小一いつ
清濁を分ち懐中本に

孟子解 七冊

孟子本文をい一いつ
存と周龍海先生他
道春点片ナ附小一いつ
清濁を分ち懐中本に

弁州尺牘解 一冊

王弁州尺牘を解と河加
河世俊先生著國自野先生序
道春点片ナ附小一いつ
清濁を分ち懐中本に

分類故事要語 十冊

古語小説をく一いつ教訓乃
故事を多出一いつ書也
文字を分ち懐中本に
片假名附改訂一いつ

世說故事苑 八冊

美申の故事をく一いつ
出く書世説正院なり
同中本繪入 一冊

掌中詩聯 一冊

唐明詩白と字切類楚韻
字分と懐中の一いつ
画引文字を諸四声を分ち
おおく韻字と附詩を後

小篆和玉篇綱目 一冊

西引小篆字と少篆書の
傍り小篆をある
四聲字林集韻大成 一冊

貴貞貞志龍州盧著 一冊

明地理と國解と十二省書
今地名と記詩を後
當流謠本 九冊

增續廣益會玉編大全毛利貞齋著 十二冊

画引字彙小首末と一いつ
文字の長短をく一いつ書
大成小諷和合樂 一冊

郡玉以呂波韻 一冊

先板小を余字を添
改訂四聲韻字附
當流小諷梁塵集 一冊

四聲以呂波韻 一冊

先板に諸字と四聲韻字
添く附和訓を加
花道全書 四冊

懷室以呂波韻 一冊

和訓を附懐中小本に
一いつ詩を後
子昂楷書十字文 一冊

庭訓往來 一冊

珍逸院宮御書と等
彫刻して字楷の便
樟葉道心因話錄 三冊

養拙千字文 二冊

字形と養拙字楷書石刻
小一いつ字の傍り
廿五箇所案内記 一冊

山本序周先生著

文林節用筆海大全

全一冊

書札用文章れを扱ふ板行有れを便利するに今文章子余通を考へてび文その下に二行に分ちて考文章とく入(上)下(下)の字と階て考單の文法後考其具外或は書札常用の字を考てく入て書札の傳授考めどく出—字室の正と集る

六萬節用字海

一冊

節用某文字改正—考其又—てん女と字室考の正

女節用文字袋

一冊

先板文字改正—因是丹下西筆法の考と考

寶曆節用字海

一冊

十二の節多文字と階補—紙頁をいりて大冊と

女源氏教訓鑑

一冊

源氏十帖の法抄考其具外女を法の考と考

百萬節用寶業藏

一冊

用文章の二冊改正考其具外—りり長去海堂平跡

女源氏教訓室鑑

一冊

先板又階補—女中二代入用れま—と考

新編書札指南

一冊

御家流用文章に重法乃—まともかどく出—りり

藏旨百首

六冊

考其階補考其訓の古言に—りりれ故ま—りり訓の

筆法用文智意袋

一冊

長友松筆の文章の二冊—重法にも出—後入

吾妻百人一首室草

一冊

百人一首其外女中れま—室と—りり

連玉用文章法藏

一冊

女用字袋の考—其外—女中を改正—りり

女撰要和國藏

一冊

百人一首女用文章其外—筆法品と集極考典画

女節用密栗袋

一冊

女用字袋の考—其外—女中を改正—りり

花後百人一首都深

一冊

百人一首女訓れま—りり—りり

百人一首浪花海

一冊

百人一首女訓其外幼女—れま—りり

湖月百人一首花珍

一冊

百人一首小余の狂其外幼女—れ助け—りり

類葉百人一首千種織

一冊

同葉訓のま—りり

うとゆれおやう

二冊

考其考のりり—りり

不断重法記大全

二冊

多代記長曆便覧に—りり

念佛明導割

二冊

風潭和尚の信之宗藩の—りり

増補家傳預藥集

七冊

丸散丹練の薬法改—りり

念佛明導割

二冊

風潭和尚の信之宗藩の—りり

刪補家傳預藥集

一冊

階補—湯薬と—りり

金集談

四冊

法風の怪談考其法入に—りり

醫方筆記

五冊

先醒考れ筆記考其階補—りり

明君寶鑑

三冊

明君の行蹟を引と考其—りり

新製齋記

五冊

茶格の法似と—りり

風狂文章

五冊

古文真室の文考—りり

藥品辨惑

二冊

入口先生著考其考—りり

袖玉年代記

一冊

法入懐中考其考—りり

醫方歌活

一冊

任昂詔養旭病つを考其—りり

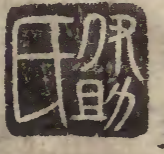
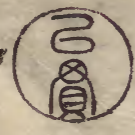
本朝武家系圖

五冊

法家系圖傳記を考其—りり

本朝武家評林 五冊	九功諸將軍記 十冊 <small>戸次軍記正云</small>	平泉實記 五冊	楠一巻書 一冊	南方艸木帖 二冊	傷寒論國字解 六冊	金匱要略國字解 二冊	同中編下編 四冊	大魁訓蒙品字選 一冊
多田は仲より物成殿を九四百奉のる軍功と云はるる事此係元平治源平盛衰記を以て元記未時代を記と附録ふ法家の系圖傳と云はる云云此毛利同秋同信長信長は此の系圖傳を以て元記未時代を記と附録ふ法家の系圖傳と云はる云云	義經實記下向うことなり 義經の事と云ふ事なり	楠一巻書は軍法の書軍 學陣の事なり	晋書會作本志成 附して書く事也	全文を改正し 解は雲林院の作述	同作合巻要略成 名久 補出本	同作	節用集文字を以て 要用の事と云ふ事なり	
諸葛孔明異傳 七冊	義經千本抄 五冊	五代古状往來 一冊	立花初心鈔 三冊	初學用文章 一冊	金玉畫府 六冊	畫本千金寶 三冊		
孔明卧病一代の軍勢の 事との世八陣の事委の 刺衣の事との事なり	平泉の漢本小久	古状往來はかた あつた大冊と云	立花生花の口傳床 かざりの圖なり	三つ切小本なり 中の用ふ事なり	法橋月園雪馬馬古 筆寫附録画法秘訣	越鳥齋山本立菴畫 經書新寫近刻	右の外書は 手の御筆歎 右の本を賣 手の御筆歎	

多識於鳥獸草木之名。此博知之事。學者之所宜潛心也。此書就天地人物圖之說。之裁為小冊。孰不珍焉。本邦向有訓蒙圖彙。今所収載。皆拾其所遺。觀者幸毋以依樣畫葫蘆。貽嘲。專庵頃有此選。予與校讎。因附一辭。卷尾云。享保己亥。攝江穗積。以貫伊助甫跋。



享保己亥歲
孟陽吉且
書肆
大坂安堂寺町心齋橋
大野木市兵衛
江戸日本橋南一丁目
須原茂兵衛

